

CLOSE UP!



成人成長ホルモン分泌不全症に対する成長ホルモン補充療法

成長ホルモンが成人にも必要なのはなぜ？

成長ホルモンは、身長を伸ばすホルモンとしてよく知られています。その他に、肝臓や筋肉、脂肪などの臓器で行われる“代謝”を整え、健康なからだを維持する重要な働きがあります。つまり成長ホルモンは、子どもから大人まであらゆる年齢に必要なホルモンで、生涯にわたって脳の下垂体から分泌されます。成長ホルモンが出なくなると、図1のようなさまざまな症状が現れます。生活の質の低下や心血管病リスクの増大、脂肪肝・肝線維化が起こりやすくなります。

成人成長ホルモン分泌不全症の原因は？

大人になってから起こる場合の主な原因は、下垂体部の腫瘍とその治療が多く、重症の頭部外傷によることもあります。原因が不明な場合もあります。

成長ホルモンは生涯必要なホルモンです。しかし、下垂体の病気などで分泌が低下することがあり、その場合さまざまな症状が現れます。成長ホルモンが出なくなる時期は、子どものときに始まる場合と、大人になってから起こる場合があります。成人での成長ホルモン分泌不全症とその治療方法を紹介します。

- 意欲の低下
- 情緒不安定
- 疲れやすい
- 集中力が続かない
- 性欲が減退する

- 心血管系疾患（狭心症・心筋梗塞、脳梗塞など）になるリスクの増加

- 肝機能障害、脂肪肝

- 体脂肪の増加
- 筋肉の量の減少
- 骨の量の減少

- 悪玉コレステロール（LDLコレステロール）の増加
- 中性脂肪の増加
- 善玉コレステロール（HDLコレステロール）の減少

- 皮膚がかさかさする
- 手足が冷えやすい

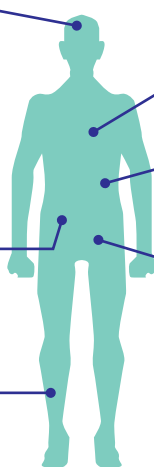


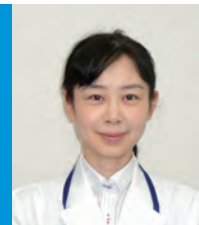
図1

成長ホルモンが不足すると

患者さんへ一言

下垂体部の腫瘍で手術や放射線治療を受けたことがある、頭部に重いけがを負った経験がある、子供の時に低身長症で治療を受けていた、出産時に大量出血があって出産後体調不良が続いている、これらに該当する方は、内分泌・代謝内科にご相談ください。

■説明は、
内分泌・代謝内科
吉田守美子（よしだ すみこ）
副診療科長



診断に必要な検査は？

まずは専門医（内分泌・代謝内科）を受診しましょう。成人成長ホルモン分泌不全症かどうかは、成長ホルモンを出す能力を調べる「成長ホルモン分泌刺激試験」を行います。検査の結果、重症の成人成長ホルモン分泌不全症（成長ホルモン分泌が高度に障害されている状態）と診断された場合は、成長ホルモン補充療法を保険診療で受けることができます。

成長ホルモン補充療法

不足している成長ホルモンを補い、正常な状態に近づけます。成長ホルモンは口から飲むと効果がなくなってしまうため、注射で治療します。専用のペン型注射器を使って、自宅でご自身で注射していただきます。

徳島大学病院で治療することのメリット

下垂体の様々な病気に対して、脳外科や小児科と連携して検査や治療を行っています。

